



中筋地区の概要

～中筋はこんなところ～



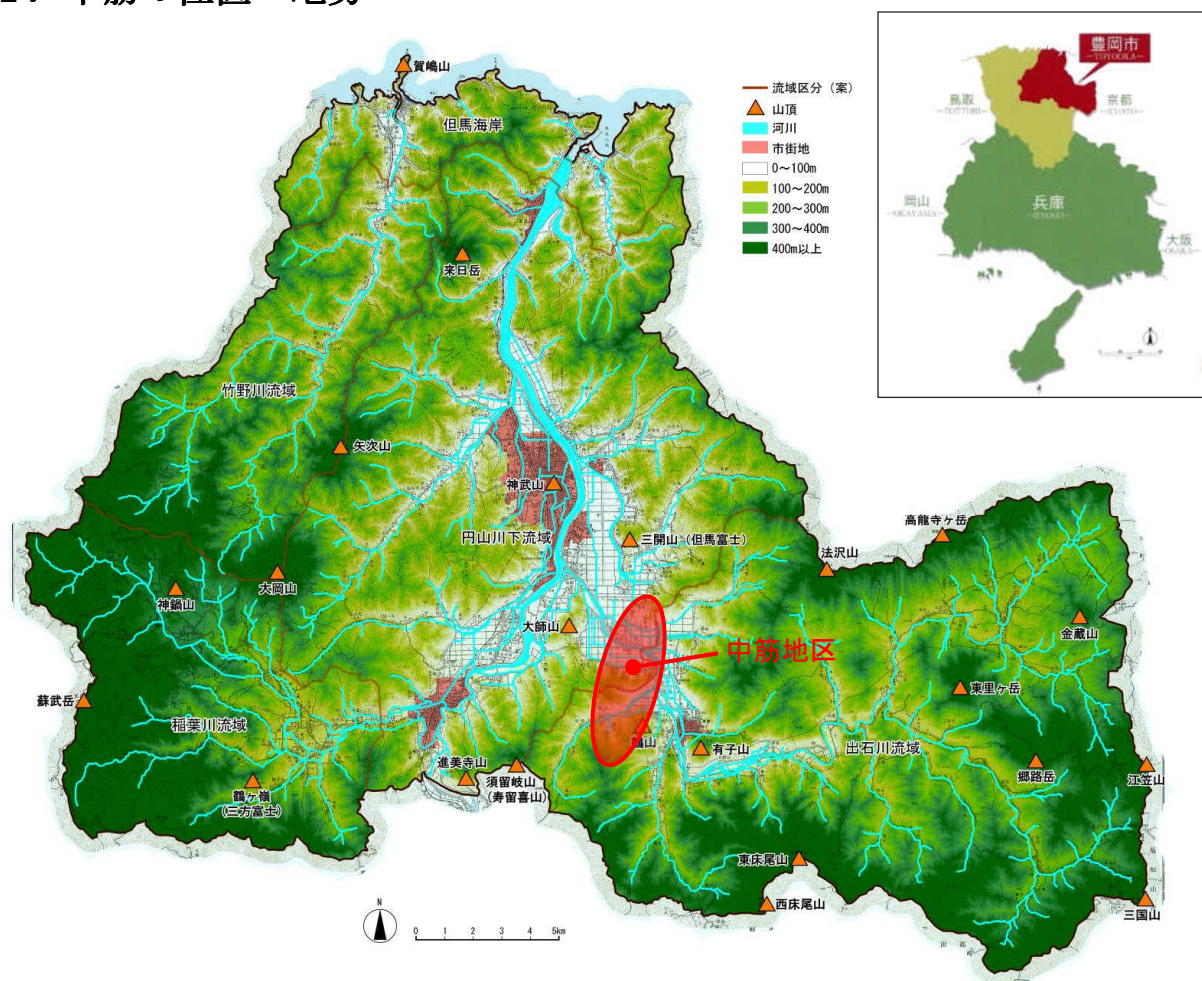
中筋里づくり計画
コミュニティなかすじ

目次

1. 中筋の位置・地勢	1
2. 中筋の人口	2
3. 中筋の歴史	3
1) 中筋はいつできたの?	3
2) 各区（集落）の名前などの由来	4
3) こんな時代もありました	8
4) 中筋の偉人	11
4. 中筋の魅力	12
1) 中筋のじまんマップ	13
2) 中筋地区の魅力と課題	15
3) アンケート調査・結果	17
5. 中筋のうた	
1) 中筋の里	24
2) 中筋小唄	25

～中筋はこんなところ～

1. 中筋の位置・地勢

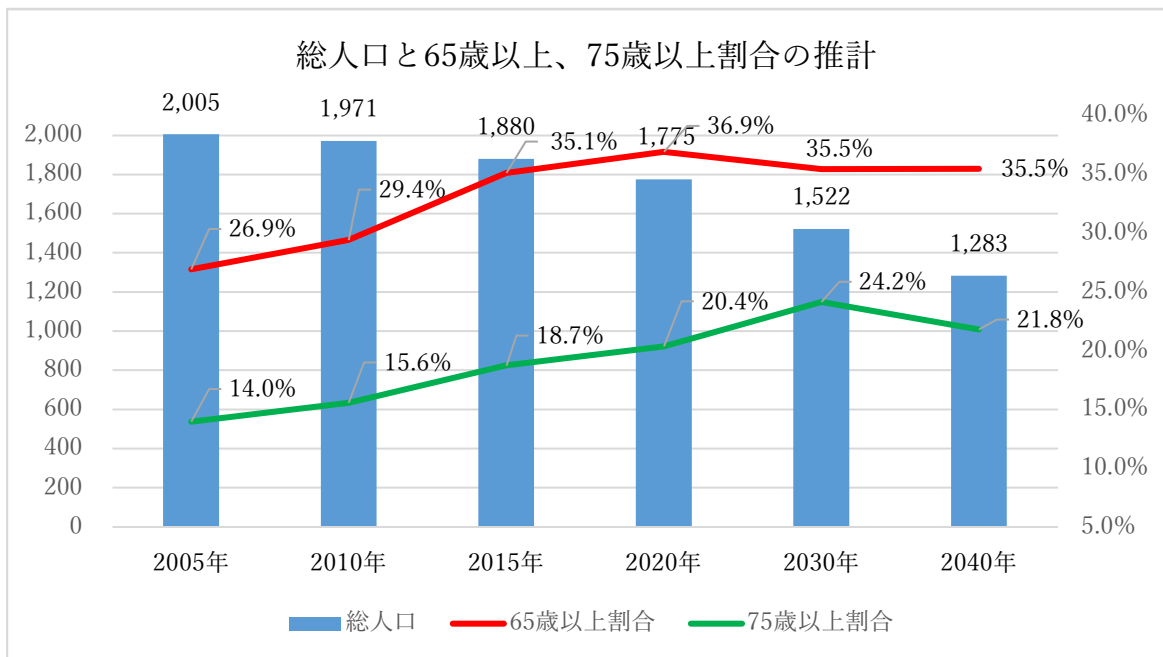


私たちの中筋地区は、豊岡市の中心部にある周囲を山に囲まれた豊岡盆地の南端に位置しています。豊岡盆地は、縄文期の海進（海面が上昇し河口から海水が進入）時には、「黄沼前海（きのさきのうみ）」と呼ばれる入り江であったと考えられています。その後の海退（海面が低下し海水が引く）により形成されたことから、肥沃な土地で農業が盛んなところです。本地区の景観の特色は、中筋小学校の校歌にも歌われているとおり大師山があり、北方遥かにランドマークである来日岳を望むことができます。また、母なる川である円山川とその支流である出石川も流れています。居住地の多くは、標高4m～7m程度の河川沿い平地部の田園地帯や山裾付近に形成され、9の集落（区）で構成されています。

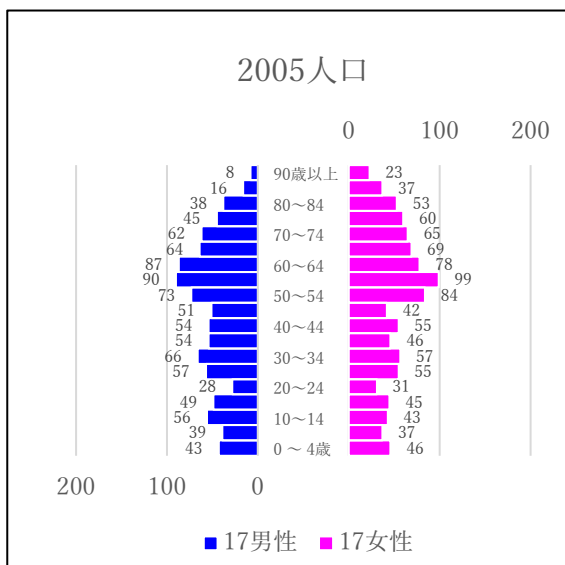
地区の東には国道426号、西には国道312号が南北に通る、中央部にはその2つの国道を東西に結ぶ北但広域農道が整備され、市街地へのアクセスも容易です。また、コウノトリ但馬空港や北近畿豊岡自動車道のインターチェンジにも近く、都市部への交通の便もとても良いところです。

2. 中筋の人口

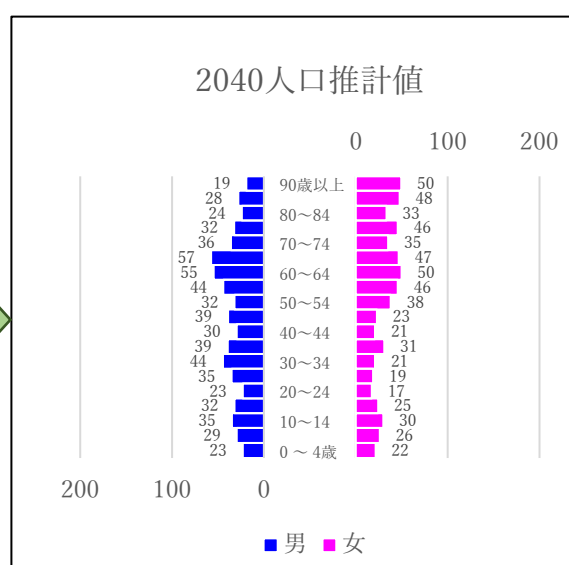
中筋地区には9の行政区がありますが、55歳以上の人口が50%を超えるいわゆる準限界集落となってしまった行政区が5区あり全区数の半数を超えています。それらの区のうち、世帯数50戸以下で高齢化率（65歳以上比率）40%以上の集落である小規模集落が、1区あります。中筋の総人口は、平成17年（2005年）の市町合併時に2,005人でしたが、令和2年（2020年）には1,775人となりました。今後の令和22年（2040年）には、合併時と比較して約34%減の1,283人となり、少子高齢化や行政区の小規模化がさらに進行すると推計されています。年齢別人口構成図では、釣り鐘形を経て平成17年（2005年）には壺形になっていました。今後も更に人口減少が進み、このままでは令和22年（2040年）には若い働き世代が少なく、著しい少子高齢化が進むこととなります。



人口推計ピラミッドデータ コミュニティ政策課



2005年国勢調査データ



2020年人口ビジョンデータ

3. 中筋の歴史

地域づくり計画（中筋里づくり計画）を策定するにあたり、私たちはなぜ地域の歴史を知る必要があるのでしょうか。それには、主に二つの理由があります。一つには、未来の計画を考えそれを実行するときには、過去に学んで未来に過ちを起さないようにするためです。もう一つは、中筋の歴史的資源や魅力を再認識し、それらを地域づくりに活用するためです。また、地域の歴史を学ぶことにより地域への愛着も深まるのではないのでしょうか。

1) 中筋はいつできたの？

中筋地区に人が住むようになったのは、縄文時代前期（約6000年前）にさかのぼります。このころの縄文土器が天神橋の橋の付け替え工事の際に見つかっています。

中郷の深谷古墳の発掘調査では弥生時代の住居跡が発見され、市谷とアイタチの谷あい稲作地とした小集落があったと考えられています。また、中山神社のふもとの平野部では多くの弥生土器が見つかり、近くに集落があったと想定されます。

弥生式文化が日本列島に伝わった三世紀終わり頃、前方後円墳をはじめとする巨大な墓（古墳）が作られる古墳時代が始まります。このころ、大陸より多くの渡来人がやって来てさまざまな技術が日本にもたらされます。中筋地区には極めて多くの古墳があり大師山古墳群と中郷深谷古墳を合わせると600基ほどの古墳がありました。また、土渕の八坂神社の裏にある古墳や、市谷集落の奥にあるコオロギ古墳には埴輪が並べられていました。大師山古墳群の古墳の作り方は但馬独自の特徴を持っています。なおその源流は九州や朝鮮半島とも類似しており海を渡った交流がうかがわれます。その頃、アメノヒボコが新羅から出石に渡って来て、但馬を開いたという神話が生まれます。中郷の葦田神社の祭神（葦田宿弥^{あしたのすくね}）は、アメノヒボコの従者であったという伝承があり、気多氏の勢力下にあった市谷を攻略し、葦田宿弥は善教寺の南に位置する深谷古墳のあたり^{なかのおおえのおうじ}に本拠を構えていたと考えられています。

645年に、皇太子中大兄皇子が中臣鎌足等^{なかとみのかまたり}の協力を得て蘇我氏を打倒し、律令時代の幕開けといえる大化の改新により、4世紀から7世紀にかけて開拓された水田は班田収受法が行われ条理化されました。現在では、土地基盤整備事業による区画整理が全般にわたって行われたため、その跡を見ることはできません。しかし、旧出石川（五条川）の川筋一帯は五条といわれ、伏と八社宮には五条という字名もあって条里制の名残があります。

引野より北の地域には、大和国家から派遣された伽耶族が出石勢力の監視のため来しました。大市山は、小高く豊岡・出石・日高の見守りに適した見張りの重要な出鼻（花）でした。中山神社山麓に、伽耶集落（和銅6年（713年）に郡郷名を佳字二字に改正する令により「賀陽」と改められたと考えられる）を形成し始めて次第に南に耕地を拡げていき、七世紀には引野まで賀陽郷と名付けられました。賀陽郷は、東の浦（浅瀬）

から西の浦（八代川）までをその領域としていました。

清冷寺以北の地域は班田収受法が崩壊した後、開墾した水田については永久に私有を許される墾田永年私財法（743年）により開田が急速に進み、集落が形成されていたと考えられています。

鎌倉時代には、田の状況を記した調査報告書である「但馬国太田文」（1285年）があり、その頃には、中筋地区の現在集落がほぼ成立していたと推測されています。

1467年の応仁の乱により山名宗全が、全国の6分の1の所領を領し出石の此隅山城を本拠としていました。しかし、足利氏を倒した織田信長が天下統一を進め、羽柴秀吉の弟である秀長の但馬攻めで山名氏は追放されました。これによって、賀陽郷にあった千眼寺が滅ぼされたといわれています。鎌倉時代以降、郷・庄と称せられていた集落又は集落集合体は、1577年からの織田氏の但馬攻略によってその支配体制は廃止され、集落を区域とした「村」を設けて徴税の単位とされました（年貢の村請制）。

かつての中筋地区は、但馬国気多郡賀陽郷（引野村、土湊村、賀陽村、清冷寺村、伏村、八社宮村）と日置郷の中郷村とに分かれていました。明治10年伏学校在「中筋小学校」と公称され、明治22年の村制施行にあたり賀陽郷一帯は「中筋村」と命名されました。その後、昭和25年の町村合併で豊岡町、五荘村、新田村とともに豊岡市となりました。

「中筋」という名称の起源については詳らかではありませんが、条里制から付けられたと云われています。また、東側に豊岡～出石の街道、西側に豊岡～江原の街道、南側の江原～出石街道の三街道があり、賀陽郷一帯がその中央を通っている中通り（中筋道）にあることから「中筋」と総称されたとも考えられています。

2) 各区（集落）の名前と神社の由来

わが国では、神代（弥生式時代）といわれた時代から集落と神とは密接な関係があったと考えられ、祖先崇拜と地域の繁栄を願う信仰が行われていました。中筋地区の各集落の名前や神社などの由来は諸説あるようですが、戦国時代末期の織田信長により集落が村となり以下のように今に伝わっています。 ※諸説あります。

◎市谷

弥生時代の末期に上郷に本拠をおいた気多氏の勢力下にあったと考えられていますが、葦田氏が先住民を支配していました。

1185年の壇ノ浦の戦いで敗れた平家落人伝承にゆかりある集落の一つと云われていますが、その伝承理由



は良く分かっていません。神社は「三柱神社」ですが、平家落人の霊を鎮める3つの供養塔を一つにして祀られていることから、その名称がつけられているそうです。又日野西眞定氏の論文では、市谷が木地屋系であり、三柱神社が菊の紋を使っており、荒神の八大竜王の祠が現存することなどが記述されています。

明治になって現在の三柱神社の前の神社は、京極藩の神武山にある神社の建材の一部を使用する形で解体移築され、今も京極藩の瓦が残されています。

◎なかのごう中郷

鎌倉時代に作成された「但馬國太田文」（当時の田の状況を調査した文書）の中に、気多郷上郷と下郷が書かれています。中郷はこの上郷に含まれていたということですが、いつ、なぜ中郷になったのかは不明で、後の検地帳には「氣多郡中郷村」と記載されています。（豊岡市史）



中郷には、平安時代の『延喜式』の「神明帳」に記された式内小社となっている由緒ある「葦田神社」があります。創立不詳にして「愛痛大あいたち明神」と言われていましたが、明治3年に葦田神社に改称し祭神は葦田宿禰あしだすくねとなっています。この葦田神社は「あいたつつあん」と呼ばれ足の神様として信仰を集めており、宵宮は境内でどんとを焚き夜0時を過ぎると、氏子は「ジジババ起こし」と称して太鼓をたたきながら区内の各家を廻ります。

◎ひきの引野

引野村は、土渕と合わせて上賀陽郷でしたが、現在の円山川堤防より外側にあった村を、現在のあたりまで引いてきたので“ひきの村”というようになったと伝承されています。しかし、生活の基は水田耕作であったことから、引いたのは家屋の移転であって村を引いたとは考えられず、村の中心は初めから現在の場所であったと考えられています。



引野の神社は「梅佐岐神社」で、祭神は豊岡市史に“須佐之男命・櫛稻田姫命”と記されています。この祭神は、京都の八坂神社の祭神であることから八坂神社を勧請して祀ったと考えられます。しかし、かつて“奉納祇園牛頭天王”と記した幟が立てられていましたので、初めは牛頭天王を祭神とし、京都の祇園社が八坂神社に合祀され牛頭天王の垂迹は須佐之男命だとされたことから、奉納祇園牛頭天王の祭神は須佐之男命とされたものと考えられています。

ひじうち
◎土渕

中筋地区で最も遅れて集落が成立したのが土渕です。土渕は上賀陽集落が発展した結果、開田が進んで離れ邑としてできた集落と思われます。上賀陽郷の北側は地域内の円山川の湾曲が甚だしく、絶えず泥水の渕をなしていたことから泥渕の村と呼ばれていたと考えられています。“泥”も“土”もいずれも“ひち”と読むことができ、泥渕を土渕（ひちふち）に改名したと云われています。土渕の神社は「八坂神社」です。



おきがや しもがや
◎沖加陽・下加陽

「カヤ」という名は、伽耶族の故国である伽耶の名から付けられましたが、下賀陽郷の上村は加陽村であり、「水島仁平治家文書」によると江戸時代には沖・木ノ宮・新開の三つの集落からなっていたことが記されています。沖は現在の沖加陽であり、木ノ宮・新開は現在の下加陽です。木ノ宮・新開がいつ頃、沖から分かれたのかは明らかではありません。元の賀陽集落から北に分かれた最初の集落は木ノ宮であったことは明らかですが、その東側に続いている新開は、木ノ宮が東に広がった部分ではなかったかと考えられています。木ノ宮・新開は村として認められておらず、明治 23 年に町村制が施行された際にも大字とはなりませんでした。



現在の加陽は沖加陽と下加陽の二つの集落ですが、神社は一つで賀陽集落発生以来の古い神社である「中山神社」です。祭神は、豊岡市史には“金山彦命”と記されていますが、昭和の初期まで“奉納中山妙見大神宮”という幟が立てられていたことを考えると、元は妙見神を祀る神社であったと思われます。“金山彦（毘古）命”は、古事記に記されている架空の神であり、この地を開いた伽耶族の首長を「かやひこ」として祭神としていましたが、語呂が良くないことから接頭詞に「な」を、接尾詞に「ま」を附して「なかやまひこのみこと」としたのが、後に「なかやま」が「かなやま」に誤って伝わったと考えられています。

しょうれんじ
◎清冷寺

下賀陽郷の下村の地域は、清冷寺村・伏村・八社宮村の三村です。建武年間（1334年～1336年）に地頭職・河越十郎から京都嵯峨の清涼寺に知行替えが行われたことから、当時の清冷寺は下村全体ではなかったかと考えられ、これが後に清冷寺の地名となったと云われています。清冷寺字七福に、かつて豊岡から出石に通じる街道（五条道）の茶屋跡が今も保存されています。



清冷寺の神社は、「三木嶋神社」です。おそらく開田地域の直南の川中にあった三本の大木の茂る島の中に建てられたことから三木嶋神社と名付けられ、最初は伏・八社宮の地域も含めた守り神であったと考えられます。祭神は、豊岡市史に“天照御魂神”と記されています。その名から推察すると、大雨などの災害で開田が妨げられないようにと祈って祀った天候を掌る想像上の神と考えられています。

ふし
◎伏

伏村は水利原がなかったことから、水を引くため旧出石川（五条川）まで清冷寺と八社宮の間を伏村の耕地として紐のように東に延ばし、旧出石川の水利を基本に開けた清冷寺や八社宮よりも遅れて形成されたと考えられています。伏という地名は、但馬国府の施設という意味の「府敷」から生じたのではないかと云われています。



伏の鎮守は天満宮で、一般には天神さんと呼ばれています。これは伏村が円山川と出石川の合流点にあり水害に苦しんだことから、神社を川の上流に向け村を背にして建て、雷除の神様である天神、天満宮を祀ったと考えられます。

はさみ
◎八社宮

八社宮は、五条川流域の開田が北に向かっていったことから発生した集落と考えられ、数多（八社？）の神社が鎮座していたことから八社宮村と呼ばれるようになったと云われています。かつてそれほど大きな集落ではなく、家並みが分散していたわけでもないのに数多の神社があったというのは驚きですが、その理由は分かっていません。明治初年まで残っていたのは五五神社と三柱神社であり、

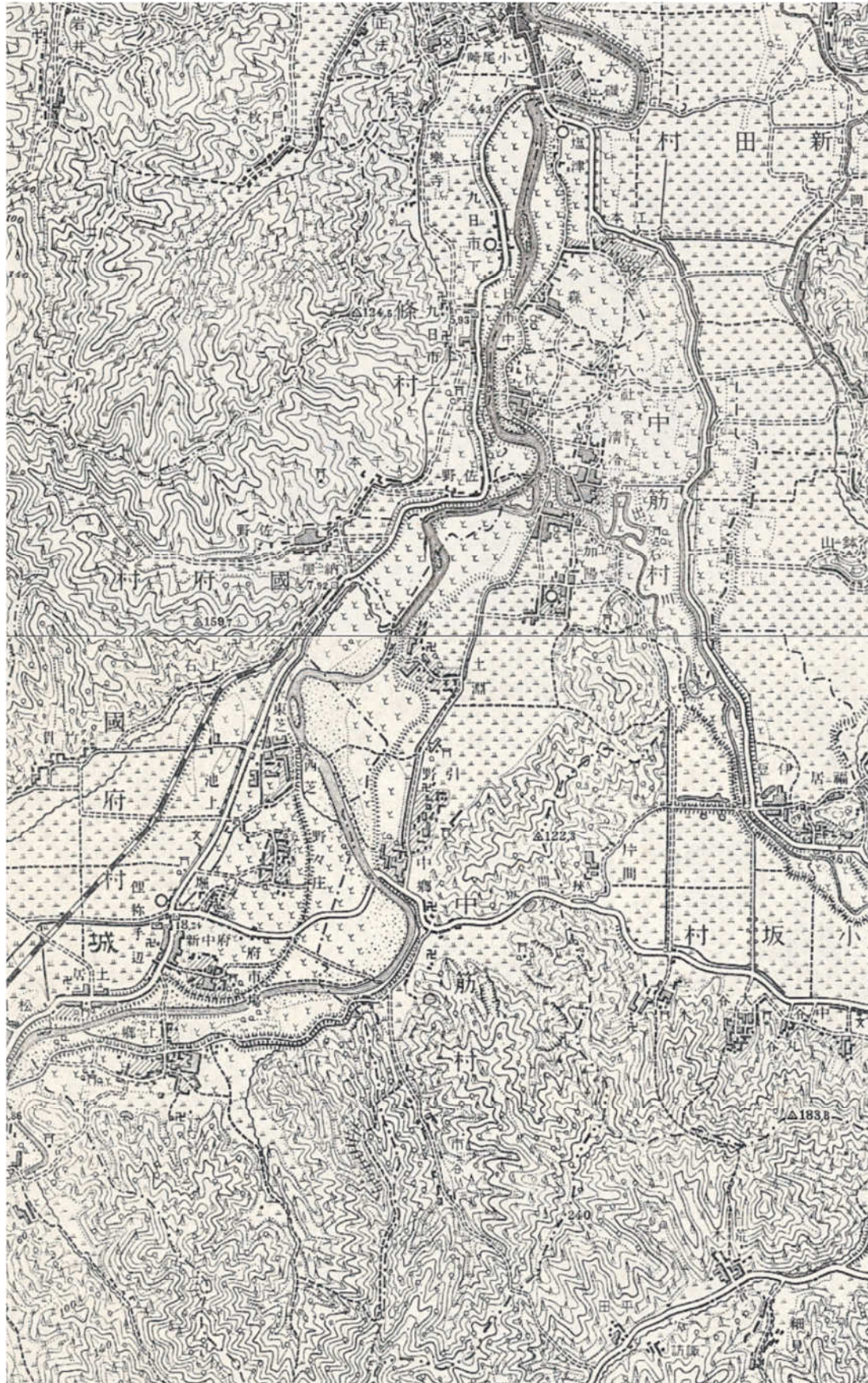


昭和 10 年に 2 社を合祀し社殿を五五神社境内に新築、社号をこの地にふさわしい八社宮神社に改称しました。

3) こんな時代もありました

次ページの図は、明治 31 年頃の地形図です。円山川や出石川は何度も大きく蛇行しており、頻繁に氾濫していたことが推察されます。中でも図上部の塩津から立野付近の“大磯の大曲り”と呼ばれていた円山川の旧河道部分は、大きく改修されたことが分かります。現在は市街地化していますが、その旧河道跡が色濃く残っています。円山川は豊かな水量を持ち、流域の産業や文化を興し育てた「母なる川」ですが、何度も大水害を繰り返した暴れ川でもありました。円山川の大改修は、大正 11 年から昭和 11 年までの 15 年もの年月をかけて行われ、現在の河道がつくられました。

主要な街道は、河川改修や耕地整理などにより現在とは大きく異なっているところもありますが、「中筋」の名の由来になった地区の中央を通る中筋道は今もほとんど変わっていません。また当時は、養蚕が盛んだったのでしょう水田と共に桑畑が多く見うけられます。山陰本線は、明治 42 年に城崎まで開通し現在に至っていますが、この地形図作成時は建設中で、納屋付近まで敷設されていることが分かります。



明治31年頃の地形図

(寄贈写真より)



中筋には、昭和4年から昭和19年まで地元住民の出資により、江原から中郷を通り出石まで軽便鉄道が通っていました。終戦後、路線復活の動きもありましたが昭和45年に正式に廃線になりました。この写真は、上郷側から撮影された円山川を渡る機関車の様子です。



陸上交通が発達するまでは、水運が人々の暮らしや産業を支えていました。昭和40年代前半くらいまで円山川に渡し舟がありました。

昭和63年に蓼川大橋が完成し交通が便利になりました



昭和34年台風報道

昭和34年、わが国に大水害をもたらした伊勢湾台風後の沖加陽の浸水状況です。それまでの円山川観測史上最高水位の7.42mを記録しました。以前は水害時の浸水に備え、集落に小舟が備え付けてありました。特に加陽区は、現在でもたびたび浸水することから、石垣を積んだ家が多く見られます。



昭和37年に土淵の川原で行われた中筋小学校の水泳教室の様子です。昭和41年に中筋小学校にプールが出来るまで地区水泳も円山川で行われていました。



昭和39年7月の下加陽の円山川堤外の風景です。中筋は農業が盛んですが、牛は機械化が進んでいなかった頃はどこの農家でも飼われ、共に働く家族のようなものでした。牛は夕方まで円山川や出石川に放牧され、農家の牛小屋は牛の様子がよくわかるような配置になっていました。



中筋小学校前の県道と新川ですが、冬季に小学生が下校の様子が写っています。まだ歩道はなく、右には農業協同組合の施設がありました。



旧天神橋があった頃、清冷寺と伏側に桜並木がありました。毎年4月の頃には、満開の桜並木の下を子供たちが元気よく通学していました。当時は信号機もなく、右端には駐在さんが写っており、昔も子供たちを見守っていたことが分かります。



中筋小学校が100周年を迎えた昭和50年の航空写真です。現在とは敷地の形状も一部異なっており、当時の校舎や園舎、プールなど当時のものは残っていません。



平成元年6月に完成した現在の天神橋の架け替え工事途中の写真ですが、手前の円山川大改修の時に架け替えられた旧天神橋より随分高くなったことが分かります。しかしながら、近年の豪雨時においては、決して安心できる高さではありません。防災に関して、河川改修には完成形がないと言えます。

4) 中筋の偉人

◎赤木正雄 (1887～1972)

東京帝国大学（現東京大学）を卒業後、内務省に入り全国の砂防工事を指揮しました。36歳の時、ウィーン農科大学に2年間留学して近代砂防技術を習得し、55歳で退官するまで全国各地の砂防工事の指導に当たりました。その後、貴族院議員や参議院議員となり建設政務次官などを務めました。1951年に開催された国際水文科学学会で、アメリカのローダーミルクが溪流等の浸食をコントロールすることを「SABO」と称するように提案し、それ以来「SABO」は世界の共通語になりました。



その一生を砂防にささげた赤木氏は、亡くなる前年の1971年に文化勲章を授与され、「砂防の父」・「砂防の神様」と呼ばれました。東京の砂防会館や塩津水防倉庫の北側には、銅像が建てられています。

◎金澤 保 (1911～1984)

昭和8年22歳の時、大志を抱き大阪へ行かれ数々の苦難を乗り越えて浪花商人として大成功されました。

郷土中筋の発展を望み、その得た財を地区の文化向上や福祉の増進を図るために、多額の金品を寄贈して下さいました。中筋小学校のプールや中筋公民館の建設など、とりわけ小学校教育と老人福祉の援助にたいへん尽力されました。



その金澤氏の熱烈なる郷土愛を敬慕するため、昭和42年中筋小学校の校庭に顕彰碑が建立されました。また、昭和46年には、1千万円の基金で財団法人中保会が設立され、今も様々な援助事業が行われています。

4. 中筋の魅力（自慢）

中筋地区には、豊かな自然や伝統・文化・歴史などこれまでの人々の生業や生活から培われてきた数多くの自慢できる魅力があります。

従来から、本地区の中央部に位置する新川水路を水源として農業が盛んで、集落周辺の平地部では田んぼと多くのビニールハウスが立ち並び、そこで作られるお米や野菜はとても美味しく地元でも好評です。現在、地区内3か所で住民による野菜市が開設され、安全で新鮮な農産物を求めた多くのお客さんで賑わっています。

自然豊かな円山川や出石川の堤防上は、ウォーキングやジョギングのコースとして日頃から多くの人々に利用されています。また、加陽湿地や加陽水辺公園も整備され、そこから大師山までの中山丘陵には山城跡や古墳群があり、散策コースとして地元民はもちろん他方からも多くの人々が訪れます。中でも大師山自然公園の桜は見事で、毎年4月に“大師山桜まつり”が開催されています。

私たちは地区の将来のために、これらの貴重な資源を再認識して守り育て、今後もさらにその活用を図っていくことが求められます。

中筋じまんマップ ～中筋のよいところ再発見！～



豊かな農産物

集落の周囲では、ビニールハウスが多く立ち並び、季節に応じてトマト、イチゴなど様々な野菜を生産している。また、中筋地区で減農薬農法により生産される生姜は、「コウノトリ生姜」としてブランド化されている。



堤防上のウォーキングコース

円山川、出石川の堤防はウォーキング、ジョギングのコースとしても整備されている。中筋地区を周回できる。



加陽の朝市

新鮮野菜の直売所。冬春はいちご、春はトマト等果菜類、秋はブドウ。手作り田舎風漬物、新鮮な卵等も販売している。



新川用水路

明治初期から中筋の農業を支えている。水路の長さは約8kmあり、約200haの田んぼに利用されている。



四天王立像（東楽寺）

四天王は持国天、増長天、広目天、多聞天の4像からなり、それぞれ邪鬼（天邪鬼）を踏んで須弥壇の四隅、東、南、西、北を守るとされています。平安時代後期に作られており、国の重要文化財に指定されている。



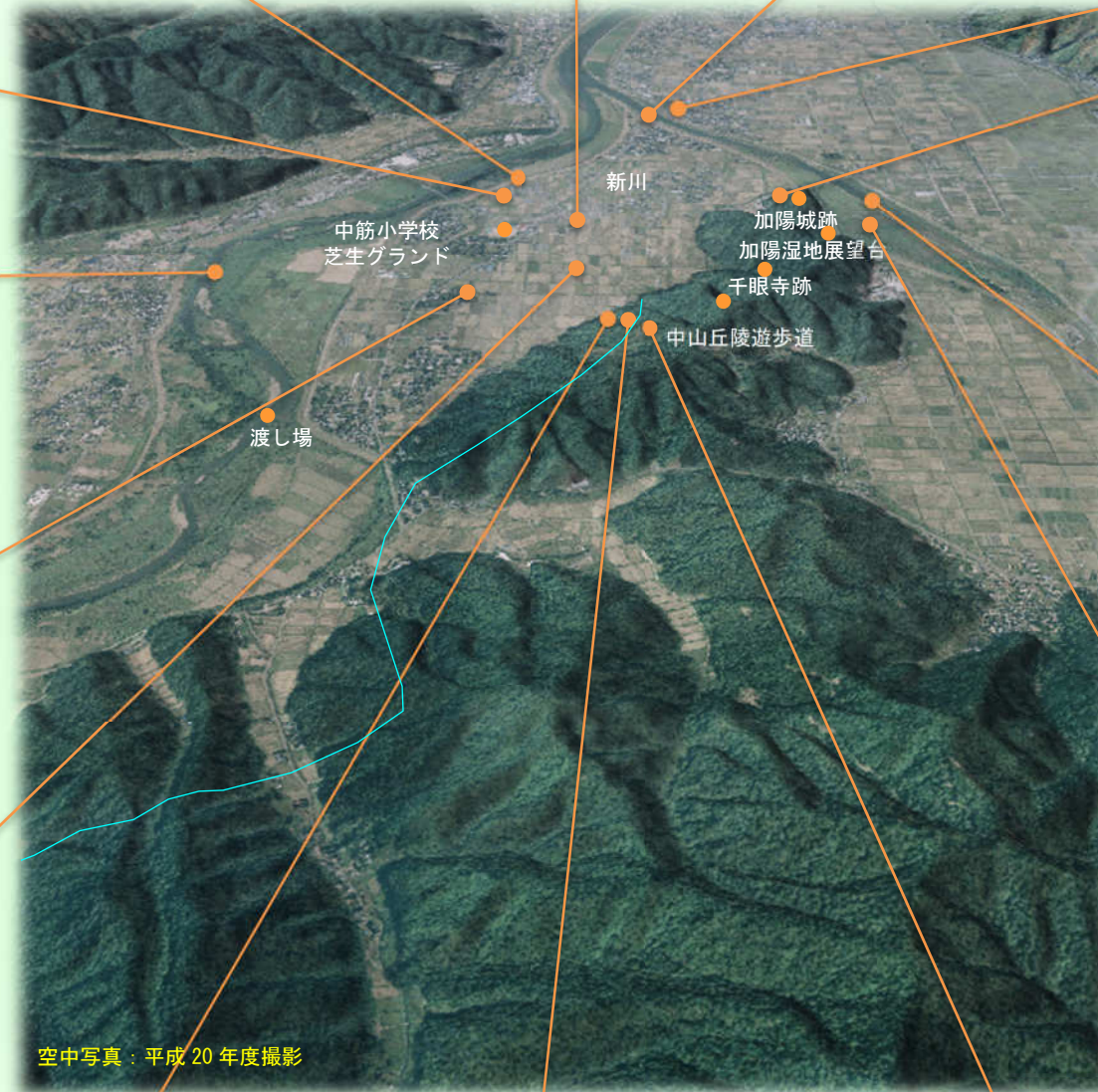
円山川

当地区付近の円山川は、瀬と淵が交互にみられる。瀬ではアユやサケが産卵する。水辺には河畔林も発達しており、自然的な景観をつくっている。



赤木正雄展示館

「砂防の父」とも称される赤木正雄博士の生家の一角に整備され、砂防事業や正雄博士に関する貴重な資料が展示されている。（事前予約制）



空中写真：平成20年度撮影



加陽水辺公園・交流館

コウノトリ野生復帰や河川の自然再生など、人と自然の共生を象徴する拠点である。加陽湿地と隣接しており、環境体験学習や地域づくりの拠点として活用されている。



出石川

当地区付近の出石川は、流れが比較的緩く砂の河床が続く。水産資源として重要なアユが生息する他、秋にはサケも遡上してくる。さらに上流側では特別天然記念物のオオサンショウウオも生息している。



田園風景

広範囲に田畑が広がっており、のどかな田園風景を形成している。



中山丘陵の里山

大師山にはカブトムシ、クワガタムシ、ヤブツバキなどさまざまな動植物が生息している。



大師山古墳群

豊岡市の指定文化財。但馬地域の中でも有名な遺跡で、大師山自然公園の周辺だけで、約200基もの古墳が密集している。



大師山自然公園

山頂付近に無料のキャンプ場や広場が整備されている。桜も植樹されており、春には「大師山桜まつり」が開催されている。



加陽湿地

開放型湿地と閉鎖型湿地が整備されている。魚類をはじめとする水生動物が豊富に生息しており、コウノトリも頻繁に飛来する。

2) 中筋の魅力と課題

ワークショップ、アンケート調査、懇談会での意見をまとめました。

歴史・文化の魅力

昔からの行事が継続されている
 大師山まつりは100回を超えている
 中筋には歴史がある 大師山がある
 八代山のお祭り、塚供養、じじばおこし
 あいたっつあん、宮籠り
 国の指定文化財四天王像(東楽寺)

歴史・文化の課題

行事が多い
 大師山祭りの参加者が減っている
 関心がない
 伝統が伝わっていない

自然・環境の魅力

自然が豊か ホタル、雪、星、虫の声、桜
 四季がある
 コウノトリを見かける 飛んでくる
 豊かな水田
 野菜、お米など食べ物がおいしい
 豊かで清らかな円山川と出石川
 霧が濃い
 新川水路がある
 湿地がある
 のんびり静か
 のびのび子育てができる
 子育てしやすい環境
 安全・安心に暮らせる
 小学校、郵便局、吉田クリニック、
 学習塾、駐在所 JA 介護センター

自然・環境の課題

ハチ、虫、野良猫、ねこ、獣、ヤマビルがいる
 昔の自然が無くなった
 昔に比べ水がおいしくない
 山と川に囲まれている為、災害時には孤立する
 内水問題 冠水する
 避難所が少ない
 円山川と出石川の堤防の決壊が心配
 道路沿いに高く生えている草があり危険
 バスの便や交通手段が少なく不便
 村の中の道が狭い
 商店、コンビニがない
 人の集う場所がない
 日役が多い
 自然を生かす活動がない
 緊急時の伝達方法がない(熊、不審者の
 出没)

産業の魅力

恵まれた農地
 農業が盛ん
 西田製菓がおいしい
 六方田んぼがある
 営農組合をつくり農業を支えている

産業の課題

若者の就農支援を考えて欲しい
 後継者問題
 外部からの就農希望者の受け入れが
 難しい

人の魅力

豊かなコミュニティ
協力的、団結できる
三世代仲良し
人の繋がりが深い 親切な人が多い
温かい
元気な高齢者が多く、仕事をしている
優秀で働き者 良い人が多い
県議会議員、市議会議員がいる
高齢者の支え合いに力を入れている
高齢者の会が盛んで楽しい
転入者がある

人の課題

人口減少 少子高齢化
一人暮らしが増えている
お年寄りが多い お年寄りに頼りすぎている
世代間の繋がりが薄い
中年会や若者の会がない
独身が多い
児童がいない区がある
アパートに住んでいる人は引っ越してしまう
若い世代が少ない
マナーの悪い人がいる(ゴミ、煙、犬の声、騒音)
関係性が近すぎる
協力体制が希薄になっている
無関心、消極的

健康・スポーツの魅力

医療機関が地区にあり便利
大師山にキャンプ場がある 利用者が多い
堤防沿いのウォーキングコースは四季を楽しめる
玄さん元気教室が盛んに開かれている

健康・スポーツの課題

円山川運動公園が無くなった
遊具、公園、スポーツができる広場がない

懇談会で寄せられたコミュニティへのお願いと期待の声

- 日役など環境維持活動に応援部隊がきてくれたらなあと思う。
- アンケート結果を良く分析して欲しい。
- 若い人が帰りたいと思うような里づくりをめざそう。
- 区長会と連携をとりながら進めて欲しい。
- 高齢者同士でどのように暮らすかを考えよう。
- 過去の災害から学ぼう。水害について中筋全体で考えよう。
- U、Iターンなど入りやすい地域づくりをめざそう。
- 子供から高齢者まで農業に親しもう。地産地消を意識しよう。
- 里づくり計画に経済活動を取り入れよう。
- 市の基本計画、実施計画にマッチした計画にしよう。
- 実践できる計画を立てよう。
- 加陽湿地、大師山、中山丘陵を活用しよう。
- 情報交換の機会をつくって欲しい。
- まちづくり部が「住み良い中筋をつくる会」のような組織ならもっとわかりやすいと思う。



3) アンケート調査

平成 30 年 11 月に文化、体育、福祉、防犯防災、地域振興の活動について中筋地区の中学生以上を対象に住民アンケートを行い 1,229 名から回答をいただきました。

平成 30 年 11 月

中筋『地域づくり計画』 アンケート

将来もいきいき暮らせる中筋の地区づくりのため、アンケートにご協力ください。

あてはまるところに、○をつけてください。

性 別	男 ・ 女				
区	市谷・中郷・引野・土淵・沖加陽・下加陽・清冷寺・伏・八社宮				
年 代	中学生	高校生	18 歳～29 歳	30 代	
	40 代	50 代	60 代	70 代	80 歳以上

問1. 中筋地区は、どんなところ（イメージ）ですか。あてはまる番号に○をしてください。

1) まち 2) むら 3) さと 4) その他（例：まほろば)

問2. 中筋地区は住み良いですか。あてはまるの番号に○をしてください。

1) 住み良い 2) どちらかといえば住み良い 3) 普通

4) どちらかといえば住みにくい 5) 住みにくい

問3. お住いの区や中筋地区で、良いところ（自慢）は何ですか。

問4. お住いの区や中筋地区で、悪いところ（課題）は何ですか。

問5. あなたは、地区や区のコミュニティ活動に関心がありますか。あてはまる番号に○をしてください。

1) 関心があり、積極的に参加している

2) 関心はあるが、参加していない

3) 関心はないが、付き合いで参加している

4) 関心はないし、関わりたいとも思わない

裏面へ ⇒

問6. 地区や区で行われている活動・事業などについて、あなたの満足度（今の取り組みに満足しているか）と重要度（これからは、これが大切だ）を、それぞれ5段階で評価してあてはまるところに○をしてください。

評価項目 活動・事業などの項目	満足度					重要度						
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	わからない
1. 地域・区内の付き合い												
2. 日役などの住環境維持活動												
3. 防災活動												
4. 消防活動												
5. 防犯活動												
6. 交通安全活動												
7. 高齢者対象の事業												
8. こども対象の事業												
9. 伝統文化												
10. 体育祭などのスポーツ活動												
11. 福祉活動												
12. 人口減少対策												
13. 自然などの景観												
14. 地区内での情報伝達												
15. 文化まつり（11/11日開催）												

問7. より良い中筋地区をつくるためのご意見やご提案など、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。



アンケート結果

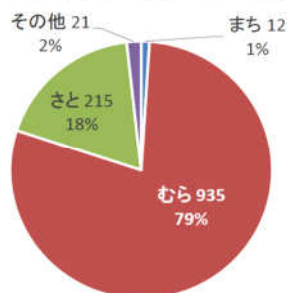
中筋は“住み良い、どちらかといえば住み良い”と答えた人は 36%で、“住みにくい、どちらかといえば住みにくい”と答えた人の 2 倍以上でした。

地区や区のコミュニティ活動に“関心はないし、関わりたいと思わない”と答えた人はわずか 12%で、多くの方がコミュニティ活動へ参加しています。

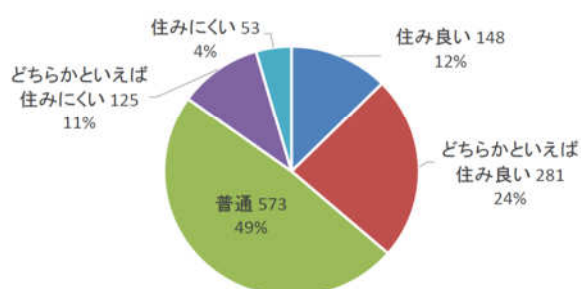
地区や区で行われている活動・事業などについて、あなたの満足度(今の取り組みに満足しているか)と重要度(これからは、大切だ)を 5 段階で評価した結果、満足度では、“満足及びやや満足”と答えた人の割合は、「地区・区内の付き合い」と「自然などの景観」が共に 42%で一番多く、続いて「消防活動」40%や「地区内での情報伝達」39%、「交通安全活動」38%、「日役などの住環境維持活動」36%、「防災活動」32%「防犯活動」31%「体育祭などのスポーツ活動」31%となっています。しかし「人口減少対策」についてはわずか 8%で、“不満およびやや不満”が 28%もあり、唯一満足より不満のほうが上回っています。

重要度では、“重要およびやや重要”と答えた人は、「防災活動」「消防活動」「防犯活動」「交通安全活動」「地区内での情報伝達」の順に 70%以上となりました。また、“どちらともいえない”と答えた人の割合が多かったのは、「文化まつり」「伝統文化」「体育祭などのスポーツ活動」でした。

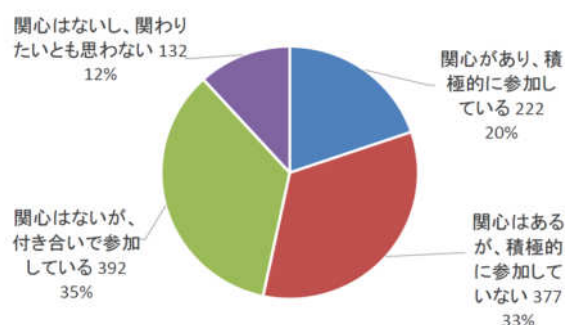
問1. 中筋地区は、どんなところ(イメージ)ですか。



問2. 中筋地区は住み良いですか。



問5. あなたは、地区や区のコミュニティ活動に関心がありますか。

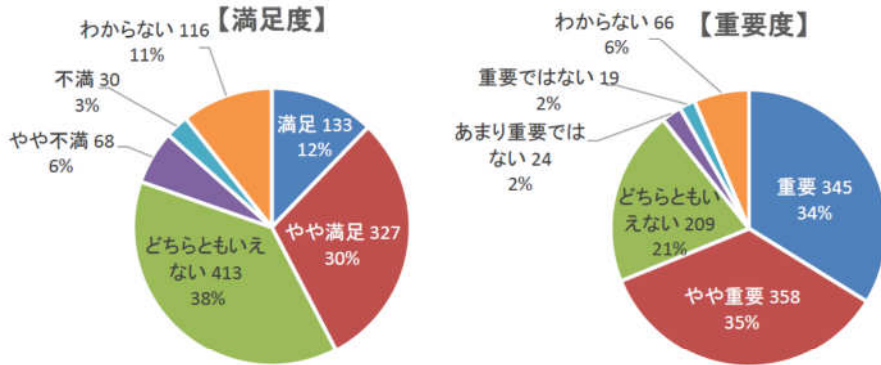


問7. より良い中筋をつくるためご意見やご提案など

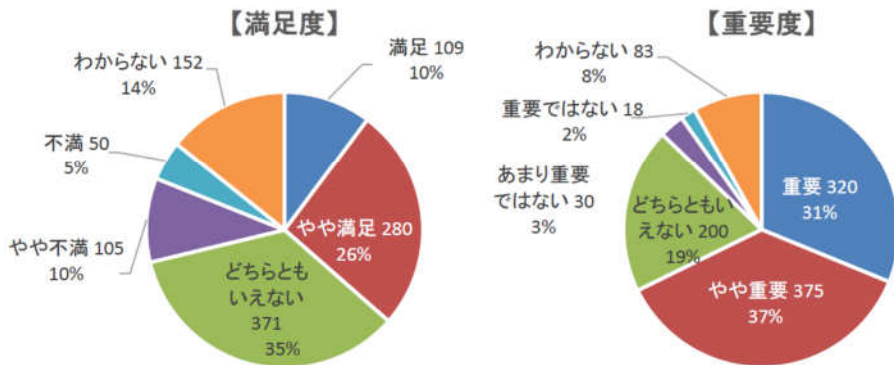
- ・ 役員の顔ぶれが同じである。一定の人に負担がかかる。
- ・ 地区の課題をひとりひとりが我が事ととらえ、マナーを守り協調性を持ち、協力しましょう。
- ・ 地区全体の交流は大切だが、体育祭・文化まつりの工夫をして、時短や負担の軽減を。
- ・ 子どもが遊べる場所、高齢者が集える場所が欲しい。
- ・ 買い物が不便、交通が不便。
- ・ ひとりひとりが健康に暮らそう。
- ・ 子育てしやすい地区になればよい。
- ・ 中筋の良いところを探そう 文化・歴史など。
- ・ 若者が暮らしやすい地区になれば。
- ・ 安全で住みやすい地区づくりを。
- ・ 農業の維持、水害対策、区内事情など

問6. 地区や区で行われている活動・事業などについて、あなたの満足度(今の取り組みに満足しているか)と重要度(これからは、これが大切だ)を、それぞれ5段階で評価してください。

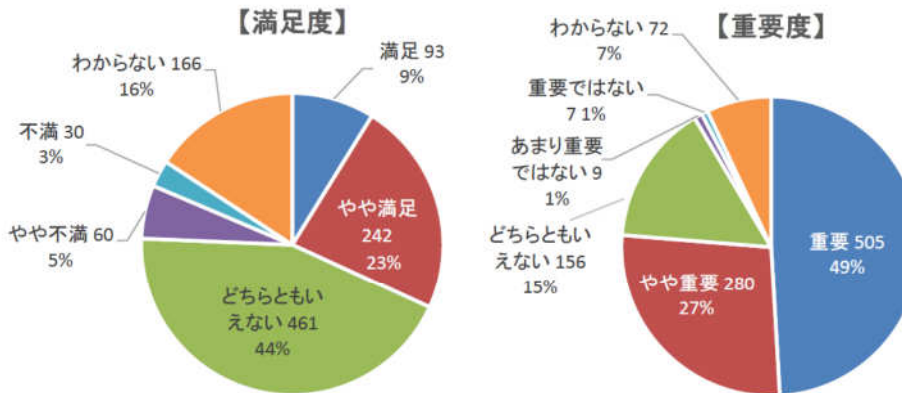
1. 地域・区内の付き合いについて



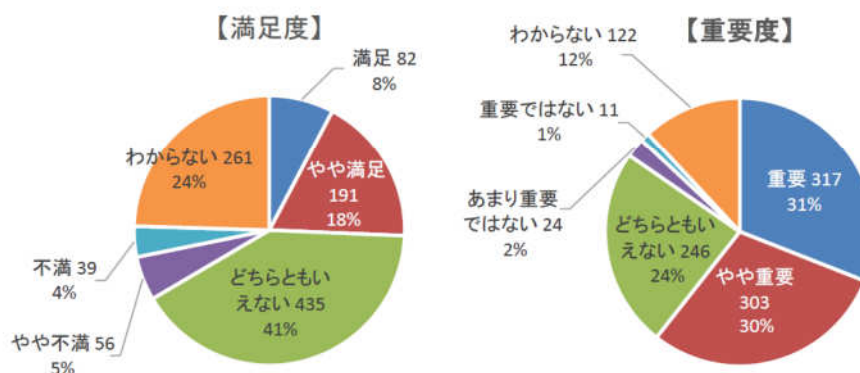
2. 日役などの住環境維持活動について



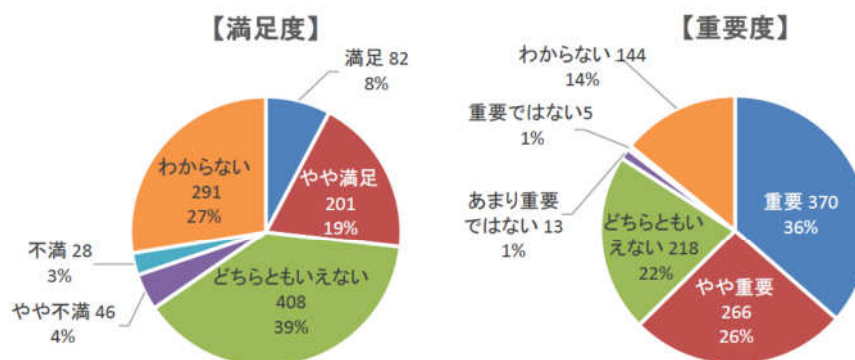
3. 防災活動について



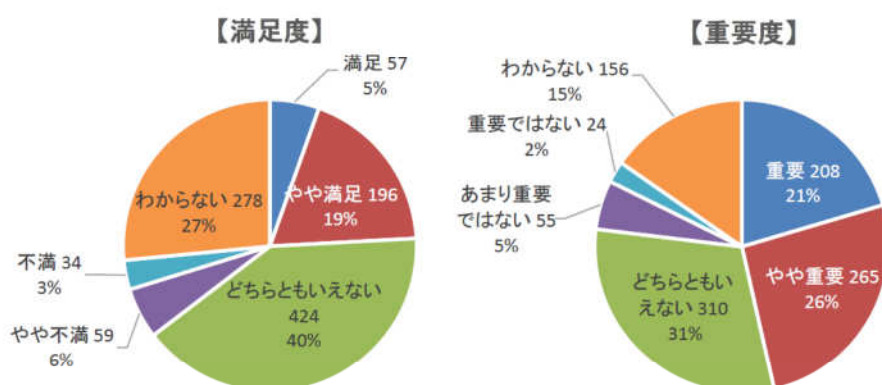
7. 高齢者対象の事業について



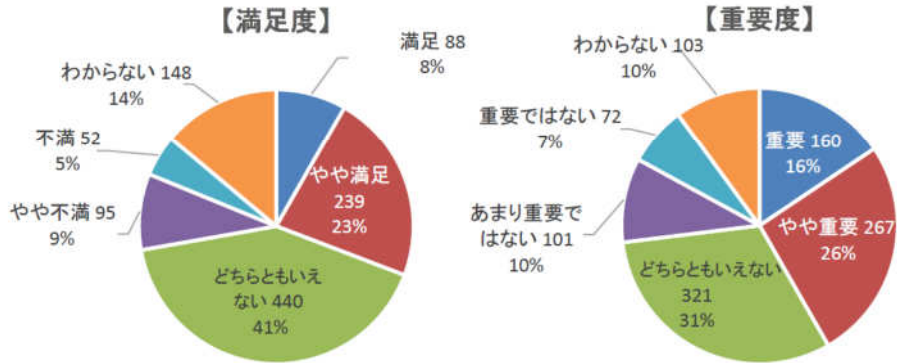
8. こども対象の事業について



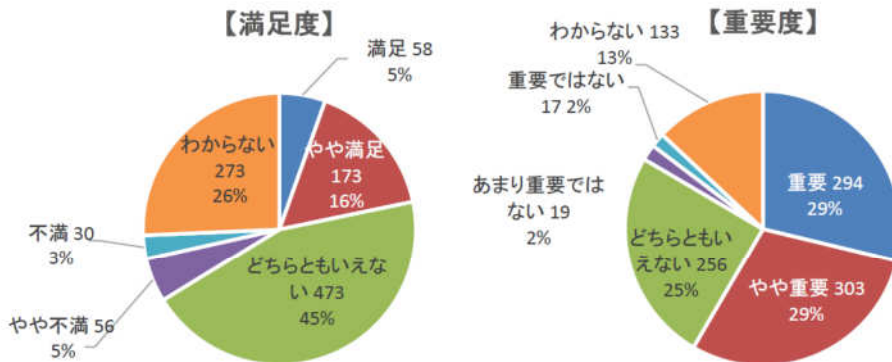
9. 伝統文化について



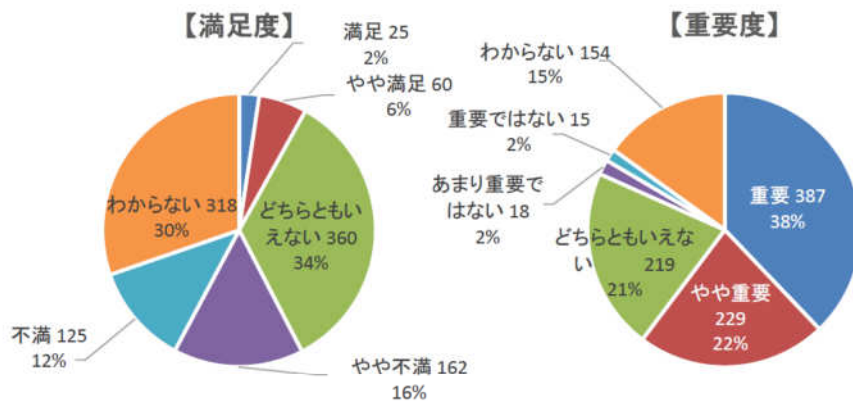
10. 体育祭などのスポーツ活動について



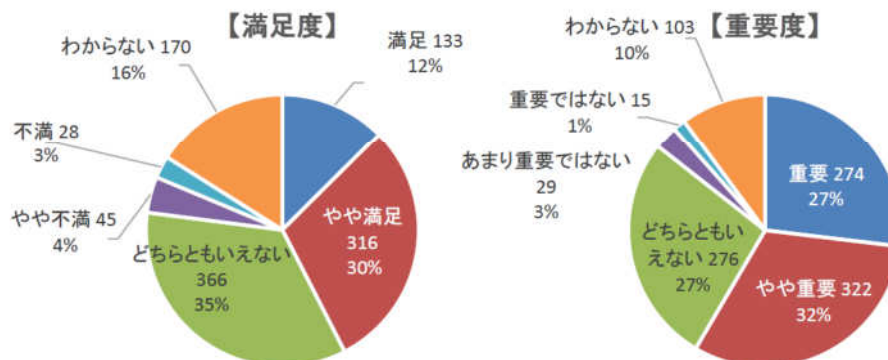
11. 福祉活動について



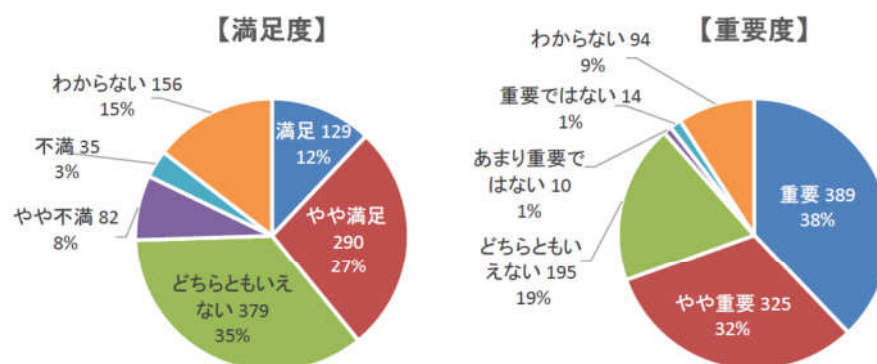
12. 人口減少対策について



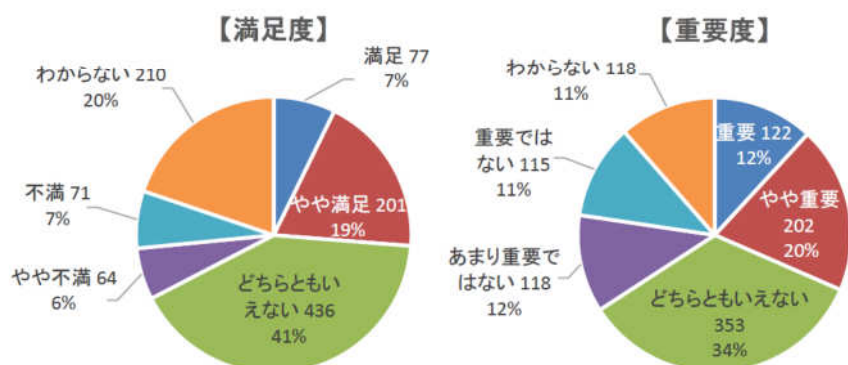
13. 自然などの景観について



14. 地区内での情報伝達について



15. 文化まつり(11/11日開催)について



5. 中筋のうた

1) 中筋の里

中筋の里

作詞・作曲 里野こみち

J=98
C



まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん
 まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん
 まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん
 まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん
 まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん
 まはると せまがまし わんと とのが いはい ずなこ しふう がぶか わまわ ながどん

中筋の里

作詞・作曲 里野こみち

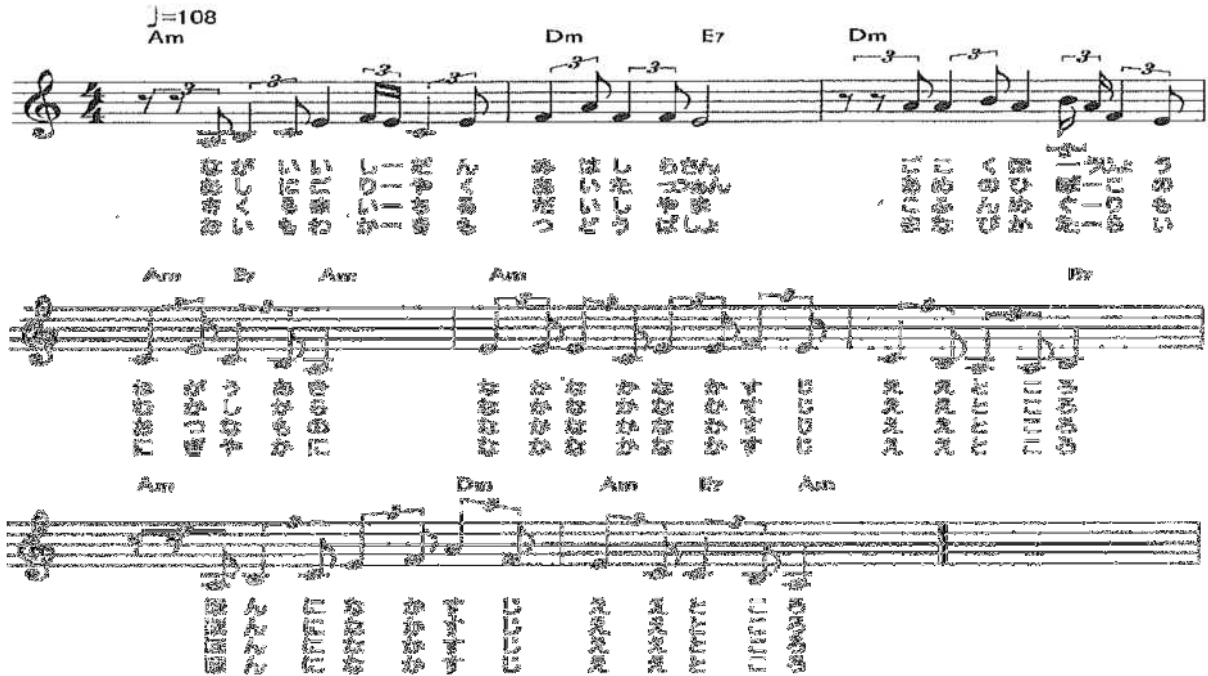
田山川と出石川
 流れ合わたり 急々と
 深いあまた 乗り継いで
 田山川と出石川
 ひと筋のたせ 橋まへへ
 舟のたせの 津が渡れたる
 あゝ 中筋の里 すこもかた
 橋のたせの 橋は風
 舟のたせの あまのついで
 舟のたせの 舟へへ
 ひと筋のたせ 木橋のたせ
 舟のたせの 舟は舟へ
 あゝ 中筋の里 ながたせ
 橋のたせの 橋は川
 舟のたせの 舟は舟へ
 舟のたせの 舟は舟へ
 ひと筋のたせ 舟は舟へ
 舟のたせの 舟は舟へ
 あゝ 中筋の里 舟は舟へ
 舟のたせの 舟は舟へ

2) 中筋小唄

中筋小唄

作詞・作曲 里野こみち

♩=108
Am Dm E7 Dm



なごさきの ながさきの ながさきの ながさきの ながさきの ながさきの ながさきの ながさきの
おんなの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの
おんなの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの
おんなの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの
おんなの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの ちびやうの

中筋小唄

歌詞・曲
里野こみち
千代子

一 長い石段 三柱さん
五續盤敷 願う秋
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

二 足にど利益 あいたつあん
天日槍の 昔から
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

三 寝舞い散る 大師山
古蹟めぐりも 乙なもの
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

四 若いも若さも 樂う場所
学びも 中筋ええところ
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

五 加藤の野原の おいしさよ
上の高みの ありがたさ
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

六 福地生まれ 育つ日シ
フ寸もカエルも ご満悦
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

七 歴史息づく 東楽寺
星を見守る 四天王
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

八 橋のたもと 天神さん
胸に秘めたる 願いごと
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

九 八つの宮に 守られて
田畑広がり いきいきと
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

十 ともに生きます 助け合い
人は寄り添い 助け合い
なかなか中筋ええところ
ほんに中筋ええところ

